



No.102
(2022/3/1)

編集・発行：**教 育 課**

串本町サンゴ台690番地5

TEL 0735-67-7260 / FAX 0735-67-7326



表紙文化財紹介

潮崎本之宮神社の 柏槨 (ビャクシン)

町指定文化財 記念物 (天然記念物)
昭和63年5月27日指定

今月号の表紙は潮崎本之宮神社の柏槨です。

串本の産土神、潮崎本之宮神社の境内にそびえるこの柏槨は、県内では一番大きいとされ、全国でも有数の大きさを誇る老大樹です。推定樹齢1200年、根本周囲約10m、樹高約20mにも及び、神木として崇められてきました。古くからこの木は「奇し樹」(不思議な樹)なので「霊(く)し樹」と呼ばれ、串本という地名は「霊木(くしき)の下(もと)」に由来するという説もあります。



令和4年 成人式

祝 成人おめでとう



1月3日、町文化センターにおいて、令和4年成人式を開催しました。成人式には、対象者139名のうち、男性53名、女性50名の計103名が色鮮やかな振袖、スーツや羽織袴で出席しました。

式典では新成人の平瀬悠晟さんと和田知樹さんが司会進行役を務め、田嶋町長の式辞、鈴木町議会議長、佐藤県議会議員の祝辞の後、潮崎教育長より仁坂県知事からの祝電メッセージが披露されました。その後、新成人を代表して、東口紀之さんが成人の誓いを読み上げました。

田嶋町長は「希望をもって、目標に向かって突っ走ってほしい。」とエールを送り、東口さんは、「この町で生まれ育った誇りと経験を胸に、新成人らしく力強く生きていきたい。」と誓いの言葉を述べました。

新成人は久しぶりの再会を喜び、終始笑顔で晴れの門出を祝い合っていました。



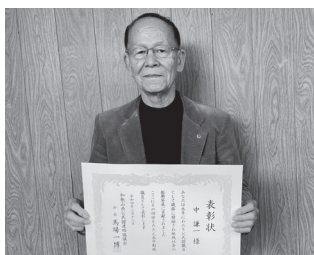
公民館職員表彰受賞

県公民館優良職員表彰及び県公民館永年勤続者表彰を、和深支館長の中謙一さんが受賞されました。

この表彰は、公民館における活動が社会教育の発展につながり、地域の人々のしあわせのために貢献したことに対して行われるもので、社会教育の向上と公民館の振興に寄与することを目的としています。

優良職員表彰は、概ね5年以上勤続して公民館活動に尽力し功績が顕著な方を、永年勤続者表彰は、概ね10年以上勤続して他の模範となりうる活動をしたと認められる公民館職員を県公民館連絡協議会が表彰しています。

中さんは平成18年から公民館活動に携わり、和深支館長及び和深区長として、和深地区に根差した公民館活動に積極的に取り組み大きく貢献されました。各団体と連携をとり、企画・運営を図り、地域住民と共に生涯学習の充実に尽力されています。



中 謙一さん

ナンタンキャンプ情報

1月30日から2月11日まで、サンゴ台の総合運動公園で、松本山雅FCがキャンプを行いました。

松本山雅FCは長野県松本市などをホームタウンとする1965年に結成された歴史あるプロサッカーチームです。現在はJ3リーグに所属し、監督は元日本代表MFの名波浩さんが務めています。

気候が温暖なことやトレーニング環境、宿泊施設が集約されていることから串本をキャンプ地に選定し、J2昇格を目標に、体力づくりや戦術的なチームづくりを行いました。



新型コロナウイルス感染拡大の情勢を踏まえ、期間中は一般非公開とし、感染対策を徹底した隔絶環境の中で練習に励んでいました。

同公園では他にも日本新薬硬式野球部や、伊賀FCくノ一三重などがキャンプを行いました。

第21回

和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝大会中止

第21回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会の中止が決定したため、1月29日に串本町チームの最後の合同練習を行いました。

この日、同大会串本町実行委員会の大岡征也会長より主催者の決定を報告し、キャプテンとしてチームをまとめてきた久保瞬君と芦立心さんは「保護者や関係者に支えられて今まで頑張ってきたのに、たすきをつなげず本当に残念。」という言葉を述べ、「私たち3年生はこれで最後になるが、後輩たちはこの悔しさをバネに来年がんばってほしい。」と後輩に思いを託しました。久保監督も「大会が無くなつて非常に残念ですが、今年も大変な中、よくがんばって練習してくれました。」と声をかけました。また、芦立さんは5年連続参加だったため、大岡会長より健闘をたたえられ、表彰状が贈られました。



練習の最後には紅白戦を行い、これまでの練習の成果を出し切って笑顔で締めくくりました。

【串本町チームメンバー】

久保 浩子	坂本 昊佑	佐藤 綾乃	野村 海斗	宮本 凜	山崎 春翔	河田 留唯	久保 流	二郷 孝太	松原 咲奏	三木 栞	吉田 美月	川口 真央	佐藤 雪乃	久保 凜	堀 美奈希	堀口 玲望	山田 涼生	芦立 心	岡村 夏祁	沖 勇汰	尾崎 太誠	久保 瞬	鈴木 花恋	宮本 夏輝	藪根 心海
(監督)	(潮岬小5年)	(潮岬小5年)	(出雲小5年)	(古座小5年)	(出雲小5年)	(潮岬小6年)	(潮岬小6年)	(串本小6年)	(串本小6年)	(串本小6年)	(潮岬小6年)	(潮岬小6年)	(潮岬小1年)	(潮岬小1年)	(潮岬中2年)	(串本中2年)	(古座中2年)	(串本中3年)	(串本中3年)	(串本中3年)	(串本中3年)	(潮岬中3年)	(串本中3年)	(古座中3年)	(串本中3年)



最後の合同練習に参加したメンバーで記念撮影

文化財防火訓練



1月17日に無量寺（串本）で文化財防火訓練を実施しました。町消防本部協力のもと、出火時の初期消火から、通報、避難誘導、文化財の搬出、放水による消火までの一連の流れを訓練しました。

す。地域ぐるみの保護活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●文化財防火デー

昭和24年1月26日に奈良県の法隆寺で火災が発生し、金堂の壁画が焼損しました。これを機に文化財を火災、震災、その他の災害から守るため、文化財防火運動を展開しようとして制定されました。以来、毎年この日を中心に各都道府県教育委員会、各消防署、文化財所有者等の協力を得て、文化庁と消防庁が連携・協力して全国各地で防火訓練などの文化財防火運動を展開しています。



熊野古道「飛渡谷道」の

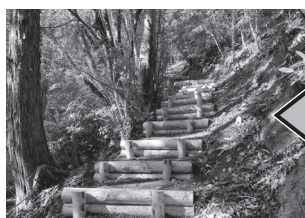
保全工事を行いました

串本町田並にある世界遺産飛渡谷道の保全工事を行いました。

平成24年に熊野古道整備のため設置した丸太階段の腐食が進み、階段が崩れたり、止め杭が飛び出したりして、歩くのが危険な状態であったため、全92段の木材の交換を行いました。また、雨水等によって土留めの木柵を設置しました。



保全工事前



保全工事後

旧谷畑家住宅（こしがわ）に 登録プレートを伝達しました

令和3年6月

24日に国の登録有形文化財に登録された「旧谷畑家住宅（こしがわ）」の登録証と砲金製の登録プレートが文化庁より交付されたため、1月26日に所有者の社会福祉法人和歌山県福祉事業団（古座あさかぜ園 佐武園長）へ伝達しました。

かつて材木商を営んだ谷畑家の住宅として昭和29年に建築された旧谷畑家住宅（こしがわ）は、良材を用いた丁寧な造作の近代和風建築であることや、清流古座川への眺望が良いことが評価されました。

この住宅は、西向（岩淵）の古座川沿いにあり、平成29年に同事業団が取得して改修し、現在は「こしがわ」の名称で、就労訓練を目的とした飲食店やギャラリーとして活用されています。



登録プレート(21×30cm)

郷土資料の 寄贈を受けました

串本町出身で沖縄県在住の河田征夫さんより図書や古文書などの史料の寄贈を受けました。

河田さんは昭和19年生まれで、串本にいた頃に町内の郷土史家らとともに史料を収集されました。仕事の関係で町外へ転出された後も史料を大事に保管されていましたが、自身が高齢となり、収集した史料がこのまま失われてしまうのが忍びないとの思いで教育委員会に寄贈の申し出がありました。

寄贈いただいた史料は、串本や紀南地方に関する水産、歴史、民俗、文芸、観光、偉人伝など様々なジャンルの図書が約500点、漁業関係などの古文書が320点以上あり、年代は幕末から近現代まで幅広く、



寄贈された史料の一部

天保8年（1837）の「漁船覚帳」や昭和10年の「鯨肉販売帳」など大変貴重と思われるものも多数あります。

これらの史

道中を見守る野の仏

「大洞の地蔵」

串本上浦海岸

沿い国道42号線の脇に、「大洞（おおぼら）の地蔵」と呼ばれる地蔵がありました。



串本から袋へ向かう上浦海岸沿い「大洞」の道は、今は国道が整備され通りやすい直線の道となっていますが、昔は断崖の裾で磯浜の砂利や磯を踏んで通らなければならぬ悪路のため、この道を通ると天狗に磯に投げられると言い伝えられてきました。大洞の地蔵はこの道を通る人達の波の危険除けとして祀られていました。国道の脇で通行の安全を見守ってきた地蔵で



料は図書館に所蔵するために現在整理作業を行っています。整理作業が完了した際には、河田さんが名付けた「河田文庫」の呼称を受け継いで、公開活用できるようにすすめていく予定です。

すが、国道の歩道拡幅工事に伴い移設を余儀なくされ、令和4年1月14日に一時的に無量寺へ移設されました。しかし、世話してくれていた方がわからなかったため、元々あった場所に看板を設置して連絡を待ったところ、二色の和田利文さんから連絡があり、話をお伺いしました。

今から70年ほど前、和田さんが20歳の頃に大洞の道（当時は県道で、幅2mほどの土道）を歩いていたところ、地蔵が無いことに気が付きました。浜を覗き込むと波打ち際に地蔵が倒れているのを見つけ、浜へ降りて地蔵を担ぎ、元々あった場所へ戻したことがあるそうです。その後、祠が建ち、失われた頭も修復され、袋区民によって大事に世話をされてきたそうです。

しかし、高齢になり世話を続けることが難しくなってきたので、袋区や関係者らが協議した結果、大洞の地蔵は無量寺にて永代に供養されることとなり、2

月3日関係者出席のもと移設先で開眼供養が執り行われました。現在は無量寺境内の観音堂の傍に安置されています。



柏槇の話をもつ少し…

潮崎本之宮神社の柏槇は、寛治4年（1090）に白河法皇が同神社へ行幸された時の記録に、「白河法皇大に愛され珍木の旨勅命あり」とあり、この頃には既に不思議な樹として存在していたことがわかります。大正期に既に中心部は空洞となっており、大正10年の暴風で幹が二つに裂け、平成2年の台風でも相当な重症を負いましたが、今も元気に葉を茂らせています。

昔は串本に三本の柏槇があり、同神社の他に、袋地区、岡家の旧屋敷にもありました。岡家の柏槇は大正10年の暴風雨で倒木。袋の柏槇も昭和20年の空襲で焼失しました。

袋の柏槇は、大正11年頃の記録で太さ7m、高さ7.3mとあり、宝永4年（1707）の地震による津波の時、千石船が袋の柏槇の上を通ったと言

い伝えられています。宝永の津波でそれまで袋にあった無量寺が流失するまでは、寺の庭木として植えられていました。



袋（無量寺跡）にあった柏槇

紙上短歌大会

町教育委員会主催の第2回紙上短歌大会を開催し、11月19日から12月23日にかけて自由題・未発表の作品を募集したところ町内や県内から71首の応募がありました。

なお、選者の唐津麻貴子氏による選考結果は次のとおりです。

【特選】

○悔いのこし言の葉ひとついつまでも枝に残れる黒き無花果

妻木 伊佐子

○テレビより「ひばり」の歌が流れてる昭和が残してくれた宝石

森 悦子

○捨て切れぬ心の滓を払えとぞ月の荒磯に晒されて佇つ

清水 円

【秀作】

○老練な板前の技に見惚れいるリズムカルなる白き指先

森田 瑠璃子

○ピン球の打ちあう音はしずかなり廃校せまるふたりの部活

北野 惣一

○亡き父の書きたる色紙和の一字気の迷う日はその下に立つ

奥澤 典子

○生きる意義教へられしと難病の医師聖火リレー走る姿に

津守 泰子

○あと幾度思ひつ母の髪を切る頂く時間小春の庭で

津田 ちあき

【佳作】

○ままごとの豪華な一品だったよね金木犀を友のみ墓に

山本 範子

○息子と夫の靴のかかとの減り具合同じと気づく冬陽に干され

杉若 喜代香

○木犀の香りを纏う風と会い嬉しき事の入りくる予感

宮崎 トシミ

○手のひらをくぼめて春をもらいたり小さいいちいさいネモフィラの苗

小山 睦美

○登山靴底の護摩壇山のどんぐりを外して埋める古希なる朝

登地 道子

○すんなりと裸銀杏の並木路透ける大空何処までも蒼

西山 五鈴

○コロナ禍にて会へぬ家族よお宝は一枚きりのスナップ写真

筏 貞子

○うなだれて風と相談するすすきいづれ君には種を託さう

濱 甲

○雨の日は野良に出られぬ母が居てわたしは今も雨の日が好き

米津 りつ枝

○聖火台傍に立つなおみさんよくぞここまで感動の増す

奥村 文子



灯台

「私ね、一日一回は笑うことにしているんです。」

出会って間もない頃、その人は言った。「ん？意識的に笑うってこと？」と、その時私は思った。あれから十数年たった今もその言葉が耳に残っており、ふと思いついて、そう言えば近頃あまり笑っていないと気付いた。

コロナ禍で閉塞感の漂う社会情勢、テレビや新聞からは多くの暗いニュースが飛び込んでくる日常。そんな中、昨年の夏から母の介護が始まった。母九十四歳、私六十七歳、まさに老老介護の日々となった。母は九十四歳になっても身の回りのことは自分でやり、台所に立って料理をすることもあり、知人からは「子孝行やねえ。」と言われていた。長年住み慣れた地を離れ、同じ町内とはいえ知り合いの少ない潮岬に移り住んで五年、退職後は母との二人暮らしではあったが、春には桜を見に行ったり、たまに食事に出掛けたり、青少年の家で二人だけのグラウンドゴルフに興じたりと互いに老後生活を楽しんでいった。

そんなのんびりゆったりした生活が、母が全介助となつて一変した。九十四歳という年齢の割にはしっかりとっているが、母が全介助となつて一変した。九十四歳という年齢の割にはしっかりとっているが、母が全介助となつて一変した。九十四歳という年齢の割にはしっかりとっているが、母が全介助となつて一変した。

母が、歩けなくなると一気に全てが衰えていった。昼夜を問わず母の世話をする日が数日間続くと、ついはいきつい言葉も出てしまう。話が全くなかみ合わない時もあるが、時おり驚くような言葉を母は口にするものがある。

食事の後、母との会話である。

「ご馳走さま、おいしかったよ。」

「今日のご飯は何点？」

「99点。」

「あと1点は？」

「100点をやると、次がんばらんから。」

また、「失敗したよ。」と言うと、すかさず「成功のもと。」と澄まし顔で返された。そんな時はふっと心がゆるむ。「笑い」は心のビタミン剤かもしれない。介護生活は心身共にしんどいと思うことが多いが、時には意識的に「笑い」を探してみようと思いはじめた。

私が見つけたのは『落語』。噺家は江戸の庶民の人間味あふれるおかしみを、軽妙な語り口で身振り手振りを交えながら演じてくれる。十五分くらいで江戸時代へとタイムスリップさせてくれ、笑わせてくれる。

東西の噺家の中でも「上方落語の爆笑王」と呼ばれた二代目桂枝雀の噺には引き込まれ、その世界にとっぷり漬かってしまう。今では枝雀落語

をナマで聴くことはかなわなくなつてしまつたが、DVDなどで桂枝雀を見ることはできる。雨の日曜日、母がショートステイで施設でお世話になっている日の半日を落語三昧で過ごすことに決めた。



掃除や洗濯などの家事を終え、買い物は後回しにしてテレビの前に座つた。久しぶりに『枝雀落語全集』を取り出してみた。まずは『高津の富』。宿屋に泊まつた男がなけなしの一分銀で高津神社の富くじを宿屋の主人から買わされ、その一枚が千両を引き当てるといふ噺を、枝雀独特の口調、表情の変化、激しい動きで演じている。落語は座布団の上で座つて語る話芸だと思つていたが、枝雀は独自のスタイルで演じ、見て

いるものを爆笑の渦に巻き込んでいく。テレビの画面を通してでもその雰囲気は伝わってくる。この全集にはほかに『つば算』や『崇徳院』など合わせて十の演目が収められていて、次々と見ていった。とにかく面白い。気分爽快になる。

以前は母が留守の間にあれもしよ



村詰 真紀子

う、これもおこうと予定を組んでも思うようにはかどらず、焦りを抱えたまま次の週を迎えていた。自由な時間を生み出せずにいたが、思い切つて考え方を見直し、日常を少し変えてみるのが大事だとつくづく思う。落語はわずかな時間でリフレッシュさせてくれた。

私が高座で初めて落語を聴いたのは十八歳の時。大阪での大学受験の会場を下見に行った帰りに何を思ったのか吉本へ。演目は忘れたが笑福亭仁鶴の落語を聴いた。受験当日、四十度の急な発熱。おそらくインフルエンザだったのだろう。当然受験は失敗だった。

受験費用を工面してくれた母はそんなことは露知らず、介助のたびに「ありがとう。」と両の手を合わす。昭和の時代にクーラーもない八月の暑い日に自宅分俵で私を生み、育ててくれた母が天寿を全うするまで見守っていききたいと思つてゐる。

本文の書体（フォント）が変わりました

今月号の公民館報から、本文の書体をユニバーサルデザインフォント（UDフォント）に変更しました。従来のフォントでは、誤った字形で覚えてしまったり、弱視や読み書き障害、老眼、白内障の人が読みにくいという問題がありました。それらを解決するために、「読みやすい」「わかりやすい」「読み間違いにくい」をコンセプトに開発された書体がUDフォントです。

UDフォントの活用は、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念とも一致します。みなさんも文書を作成される際は、UDフォントを使用してみてくださいいかがでしょうか。

●従来の明朝フォント

ここは串本 向かいは大島
仲をとりもつ巡行船

1 2 3 4 5 6 7 8 9
1 2 3 4 5 6 7 8 9

●UD明朝フォント

ここは串本 向かいは大島
仲をとりもつ巡行船

1 2 3 4 5 6 7 8 9
1 2 3 4 5 6 7 8 9

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等を
なくそう



STOP! 自撮り被害

インターネットの危険から子供を守ろう!

自撮り被害とは、だまされたり、脅されたりして自分の裸などの写真を撮影して送られることで、被害にあう児童・生徒は近年増加傾向にあります。インターネット上に写真が流出すると、不特定多数の人にコピーされ、すべての写真を削除することは困難です。

加害者・被害者にならないために

◎自撮り画像は撮らない! 送らない!

県青少年健全育成条例により、青少年に対して児童ポルノに相当する自撮り画像を要求する行為を禁止しています。

◎フィルタリングは必ず利用しましょう!

青少年が携帯電話端末等を使用する場合は、法律に基づき、原則としてフィルタリングサービスを利用しなければなりません。

フィルタリングを有効にすることが、子供を犯罪から守ります。

◎家庭で決めよう! スマホの使い方のルール

第17回町民音楽祭の中止について

令和4年3月6日(日)及び13日(日)に開催を予定しておりました串本町民音楽祭は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。

音楽祭のために練習をされていた皆様や楽しみにしてくださっていた町民の皆様にはご迷惑をおかけすることとなり、大変申し訳ございません。

何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

